

ふとん類の圧縮包装を機械化

簡単作業で省人省力、配送コストも低減

新型コロナウイルスの感染拡大は第7波に入り、まだまだwithコロナが続く模様で、リネンサプライ市場では、「衛生」に対する要求が高まっている。その一方で、コロナ禍の従業員離職による人手不足、燃料高騰はじめ資材等の値上げで生産や配送にかかるコスト上昇の状況下で、省人化や生産効率アップのための設備投資も求められている。

その中で、包装機メーカーの(株)日本シーリング(埼玉県さいたま市)が開発・販売する布団・毛布圧縮機能付シール機「SF-95A」は、包装作業の機械化による省人化、包装による衛生的なサービスの提供、さらに圧縮包装により配送効率を高め、コストダウンにつながる設備として導入が進んでいる。

省人省力、1人作業が可能に

SF-95Aは、大きな布団や複数枚の毛布などを簡単に脱気し、かさばる寝具類をコンパクトに包装できるシール機。本誌38号にて導入事例を紹介したように、病院寝具工場などに導入が進んでいる。

操作は、袋に入れた布団を機械の横側からセット、袋の端がヒーターより手前に出ていることを確認し、フットスイッチを踏むと、上からプレス板が下降し、布団を均一にプレスしながら脱気、布団が圧縮された状態で左右のダブルスイッチを押してシールカットするもの。

これまで布団の包装は、作業者が布団の上に乗って中



の空気を抜き、別の作業者がシールするといった作業が行われていたが、重労働のわりに十分に脱気できない、あるいはムラがあったほか、人手と手間がかかる作業になっていた。

この作業を機械化することで、複数枚重ねた布団も



▲重労働だった脱気包装を簡単作業に



▲袋に入れた布団をセット



▲フットスイッチを踏んで脱気

しっかりと圧縮でき、作業時間を大幅に短縮、しかも女性1人作業が可能になるなど、省人省力化を図ることができる。

処理能力は、1時間あたり180枚（袋入れの作業時間除く）。導入工場では、100枚（20袋）処理するのが「2人で30分以上」から、「1人で10分」になったという。なお、電源は100Vなので場所を選ばず、キャスター付で設置後の移動も簡単にできる。シール幅は950mm、ヒーターは2重シールで、シール箇所が開かないように圧着できる。寸法は、幅1,200×奥行1,720×高2,060mm。

また、現在使用中の包装資材をそのまま使うことができるため、コストアップせず運用可能。



▲左右の緑のボタンを押してシール

圧縮により車輛積載量 30%アップ

かさばる寝具類を脱気包装することで、台車への収納枚数は大幅にアップすることになり、これが大きなメリットを生んでいる。

布団の保管エリアの省スペース化はもちろん、導入工場では配送車輛への積載枚数が薄い夏掛け布団でも約30%アップするという実績が出ており、これにより配送回数を削減し、配送コストを抑えることができている。ガソリン代が高騰を続ける今、圧縮包装がコスト低減の効果を生んでいる。

展示室でテスト包装、オンライン展示も



▲SF-95A 動画

日本シーリングでは、本社2階（東武野田線の岩槻駅より徒歩7分）に常設している展示室にて、タオルやユニフォームなどリネン製品を自動で脱気・包装する「全自動包装機SSシリーズ」はじめ、各種包装機を展示し、それぞれ実演テストできるようにしているが、このSF-95Aについても多くの要望に応え6月から実機を設置、テスト包装が行えることになった。

同社に訪問してのテストを受け付けているほか、「オンライン展示」も行っており、事前にテストしたい商品を同社に送付すれば、実際の包装の様子をZoomで視聴することができるという、そのテストを見ながら機械について細かな要望に応えるとしている



便利なキャスター付き！

100VでOK！

▲場所を選ばず、移動も可能

※製品に関する問合せは、TEL048-758-4422 まで。ホームページでは、デモ運転動画も公開中。

<https://nihon-sealing.com>